

プサン都市観光実習及び新羅大学校との交流報告

中 尾 清

1 はじめに一本稿の目的

観光文化実習（都市観光論・プサン）は、観光学入門を学んだ内容のレベルアップと異文化理解・国際交流を図ることとして、韓国第2の都市であるプサンをフィールドに「都市観光」及び韓国の歴史・文化を実地に学ぶ、と同時に本学との提携校である新羅大学校の学生との交流を行うことを目的とし、2009年8月17日から24日まで8日間の実習を実施した。参加者は、50人（学生49人、教員1人）である。



写真① 新羅大学校

本稿は、その8日間を日記風に報告するものである。(写真①)

2 実習及び交流の記録

(1) 8月17日（月）

大阪市営地下鉄コスモスクエア駅に参加者全員が14時に集合した。パンスターフェリーは、大阪南港の国際フェリーターミナルから15時過ぎに出港し、一路プサン港へ向かった。16時30分ごろ、左に淡路島、右に神戸の垂水、明石を眺めながら、明石海峡大橋の下を通過し、播磨灘に入った。播磨灘を進むと、右側に小豆島が現れ、左側には、屋島・高松の遠景が見えてきた。高松沖を過ぎて右手に塩飽諸島を見ながら瀬戸大橋の方向を見ていると、赤い夕日が沈んでいった。瀬戸大橋の下をくぐるころ、夕闇が迫ってきた。

20時から、パンスターフェリー主催のイベントがあった。第1部は、マジックショーであった。第2部は、カラオケ大会であった。韓国人の出場者は、全員プロかと思われるぐらいのすばらしい歌唱力である。わが大阪観光大学からも1年生のKくんが熱唱し、会場を沸かした。第一夜は、船中泊である。

(2) 8月18日（火）

午前7時からバイキング形式の朝食をとってしばらくすると、プサンの街並みが見えてきた。いよいよプサン港に入港である。入港風景には感動した。(写真②)

午前10時前、釜山国際沿岸ターミナルに接岸した。検疫、入国審査、税関のチェックを経て入国した。新羅大学校の皆さんの出迎えをうけた。金（キム）先生や宮城先生、学生たちに



写真② プサン港入港



写真③ 昼食：ビビンバ



写真④ 永嘉台



写真⑤ 学生会主催の歓迎会

挨拶をし、3階の食堂・伽倻会館へ。昼食にビビンバを食べた。(写真③)

昼食後バスにて出発、まず永嘉台へ向かった。永嘉台は、朝鮮通信使が船で出発するときに航海の安全を祈って“海神祭”を行ったところである。(写真④)

次に釜山博物館の見学をした。釜山博物館では、時間が1時間程度だったが、古代から現代までの展示を、説明員の的確な日本語の説明を受けた。小生は2回目であるが、前に比べて朝鮮通信使に関する展示が充実していたように思った。みんな熱心に聴いていたので、木曜日の「朝鮮通信使の講義」がしやすそうだ。

新羅大学の寮へ移動しチェックインして、商経館大講義室で学生会主催の歓迎会があった。小生がお礼の挨拶をした。その後、金先生・張（ジャン）ヒジャン先生の歓迎の挨拶があった。(写真⑤)

大阪観光大学の・学生代表の大西君が韓国語でお礼の挨拶をし、新羅大学校学生会代表にお土産を渡した。そして、韓国出身の大阪観光大学生の朴くんも交えてガッチリと握手した。最後に学生会代表による歓迎の挨拶があった。(写真⑥)

その後、新羅大学生の案内で小グループに分かれてキャンパスツアーに出かけた。その後、



写真⑥ 友情の握手



写真⑦ プサン市庁



写真⑧ 昼食：韓定食

寮の食堂へ集合して、寮生活の諸注意を受けて、食事後それぞれくつろいで韓国での“第一夜の夢”を結んだ。

(3) 8月19日(水)

朝食を寮の食堂で済ませ、バス2台で、プサン市庁へ出かけた。(写真⑦)

講義1は、「プサン市の観光政策」と題して、釜山広域市国際協力担当官室（福岡市派遣職員）の田中賢治氏と国際協力課の朴殷錫氏から、「①超広域経済圏、②アジアゲートウェイ2011について」の講義をしていただき、一般広報室と姉妹都市記念室の見学をした。

昼食は海雲台の奥にある「フックシル」というレストランで韓定食をいただいた。この韓定食は、身近な食材が使われており庶民の料理のようだ。(写真⑧)

一般的に韓国料理は、たくさん出てくるので、食べきれない。もったいないと思うが、“残す食文化”ということで、残した。

「フックシル」は、広い敷地の中に建物が点在しており、まるで“民俗村”の中にいるみたいで、食事が終わると出発までその中を散策し見学した。

その後、海東龍宮寺にでかけた。海に面した風光明媚なところにあり、まさに“観光寺院”といったところであるが拝観料がないのが嬉しかった。

海東龍宮寺を後にして、海雲台へ向かった。夏の暑さが戻った海雲台ビーチには、海水浴を楽しむ人たちがたくさん来ていた。海雲台ビーチの端にある冬柏の駐車場にバスを止めたので、「冬柏（島）は一周20分なので散策してみてもは・・・」と勧めたら、7人が挑戦した。

(4) 8月20日(木)

9時20分から商経館大講義室で、新羅大学校のジャンヒジャン商経学部教授から「韓国におけるスローシティの動向と課題」で講義を受けた。(写真⑨)

先生から、イタリアで始まったスローシティの動向について、韓国も含めて最新の状況をやさしく解説していただいた。先生は、立教大学大学院修士課程を修了されており、日本語は、



写真⑨ 張教授の講義



写真⑩ 「医療観光」の講義と実演



写真⑪ 修了式

非常に上手で、まるで“日本人”みたい、というのがもっばらの先生評である。

2 講目は、小生による「朝鮮通信使と釜山」と題した講義である。江戸期の日本と朝鮮の友好時代の両国関係、プサンにおける現代の「朝鮮通信使まつり」の状況などを講義した。

昼食は、新羅大学のシャトルバスに乗って町のレストランに焼肉を食べに出かけた。予算の関係で豚肉にしたが非常においしかった。明日は、午後から自由行動を予定しているので、町のレストランで牛肉をハサミで切って、焼肉を楽しんでもらおうと思う。

3 講目は、引き続き小生の「“韓流”を活かした観光まちづくりと日韓・国際交流のあり方」の授業である。大阪市生野区を中心とした観光まちづくりと日韓・国際交流の状況を講じた。その後、中尾ゼミの4年生により、3年生のときのフィールドワークでまとめた「観光地としてのコリアタウンの魅力を探る－食文化・国際観光・交流の拠点として」の発表をしてもらった。

(5) 8月21日(金)

朝食は、寮の食堂でとって、10時30分から商経館大講義室で、新羅大学のジョミョンジェ史学科教授から「韓国の歴史について」の講義があった。

講義は、①過去の問題をめぐる対立の内容と理解の基準、②キムチを通してみる韓国の伝統的な食文化について、解りやすく解説をしていただいた。先生は、駒澤大学、京都大学でも研究されたとのことで、日本の歴史にも造詣も深く、日本語も流暢に話された。

昼食は、新羅大学校内の学生食堂でとり、“学食”の経験もしてもらった。

午後は、ウンベク韓医院長・韓医師ジョン・ヨンソブ氏に韓国による「医療観光」(メディカルツーリズム)についての講義と針治療を数人の学生に体験してもらった。(写真⑩)

明日が土曜日で大学は休みなので、早めの修了式と記念写真撮影が行われた。(写真⑪)

その後、新羅大学の学生等の案内により、グループで西面を中心とした自由行動をした。この自由行動では、プサンの観光や商業の状況を見てくることが狙いである。

(6) 8月22日(土)

今日は、キムチ作りに挑戦した。大学のシャトルバスに乗って沙山駅へ行き、そこから地下鉄に乗り四面駅で乗り換え、釜山駅4番出口で集合して、クッキングスクールに行った。今日は、キムチづくりである。みんなかわいいエプロンをつけてスタンバイ。学院長先生の講義



写真⑫ キムチづくり



写真⑬ 自由行動（南浦洞：国際市場）

と実演を熱心に見て、手順を覚えて、いざ、挑戦、うまくいくかな。(写真⑫)

始めは、「どないすんの？」と、ワイワイがやがや。笑顔がこぼれる。途中からは、黙々と。異文化体験に真剣なまなざしが横顔から窺える。「できた。」みんな嬉しそう。

作ったキムチは、真空パックにしてお土産にした。帰国後すぐが“食べごろ”だそう。昼ごはんのおかずの“プルコギ”がおいしかった。

午後は、フリー。昨日のグループを中心に、2班が合体したり、一部分かれたりして、自由行動をした。ほとんどが南浦洞の国際市場、チャガルチ市場へ出かけた。帰寮時間は、午後8時を標準にして、各班の自主性に任した。(写真⑬)

夜に宮城先生が寮に来てくださって、先生のチマチョゴリを試着させてもらい女子学生は、大喜びであった。一人一人記念の撮影をした。宮城先生の心遣いに、“感謝感激！”といったところ。(写真⑭)



写真⑭ チマチョゴリの試着

(7) 8月23日(日)

今日は、帰国の途につく日である。朝食を寮の食堂で済まし、午前9時、寮の食堂のスタッフ、警備員にお礼の挨拶をして、バスで出発した。龍頭山公園で1時間の自由行動をし、昼食は、釜山国際沿岸ターミナル内の伽倻食堂でサムゲタンを食べた。

新羅大学校の皆さんとお別れだ。記念の写真を撮ったり、住所を交換したり、中には別れを惜しみ、泣いている学生もいた。「さようなら」「カムサハムニダ」。新羅大学校の皆さん、ありがとう。「カムサハムニダ！」。(写真⑮)

出国手続きをし、パンスターフェリーは、午後3時30分ごろ一路大阪南港へ向けて、釜山港を出港した。

朝鮮海峡(大韓海峡)を渡ると右舷に対馬が見えた。対馬は、大きな島である。さらに行くと、日が落ちてきた。沈み行く太陽をカメラに収めた。虹も出た。非常にきれいな対馬海峡の



写真⑮ 「カムサハムニダ！」



写真⑯ 対馬海峡の夕景

夕景である。(写真⑯)

楽しい食事の時間になった。今日の夕食は、バイキング形式であるが、帰国する日本人に味覚をあわせたのか、非常に食べやすかった。デザートも充実していた。

船は、玄界灘を航行中である。食事を終えて甲板に出た。遠くにイカ釣り船のいさり火が漆黒の闇の中に転々と横一列で光っている。

今日で7日が過ぎるわけであるが、何か「あっという間の出来事」であった。午後9時半ごろ関門海峡に入った。兩岸に下関、門司の夜景が広がっていた。

(8) 8月24日(月)

朝食は往路と同じバイキング形式であった。これで“韓国食”とは、当分お別れだ。心なし味付けが“日本風食”になっていたのは、気のせいだろうか。

朝食を終えた学生達もデッキに出て瀬戸内海の景観を楽しんでいた。午前8時30分過ぎに明石海峡大橋の下を通過した。左舷側は神戸だ。何の事故もなく帰ってきた、という実感がこみ上げてきた。

午前10時前に大阪南港に到着した。入国審査等を終えて、全員の無事を確認して、大阪港国際フェリーターミナルにて解散した。

3 おわりにープサン都市観光実習及び新羅大学校との交流報告会

参加者全員が個人あるいはグループでレポートにまとめて提出してもらった。

10月15日、そのレポートを基にして、報告・交流会をした。

最後にこの実習から「学んだこと」を2組のレポートの一部を紹介して、「まとめ」とした。

(1年生・Kくん、Iさん、Iさん)「この実習を通して、得た出会いはとても大きなことである。異文化との出会いから得た「知識」や韓国人学生が流暢な日本語を話している姿を見て、外国語を話せるようになりたいという「向上心」、話したことのない人と話すことによって得られた「新しいコミュニケーション」、興味を持ったことはやってみるといいう「積極性」など、多くのことを学んだ。」

(4年生・Sくん)「韓国では日本とは文化や習慣が異なり、戸惑うこともあったがその違い

を知ることで、ますます興味が湧いてきた。お互いの国を知り、多くの国際交流をしていきたいと思う。また寮での共同生活ということもあり、学生同士の仲もますます深まったことだと感じた。プサン実習は学生時代の大きな思い出となった。」